



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：ガザの武装勢力が、テルアビブをロケット弾で攻撃

ガザのハマースあるいはイスラム聖戦は、イスラエルに対するミサイル攻撃を過去にない規模で拡大した。14日から15日にかけて行われたロケット弾攻撃は、300発に近く、イスラエル南部の都市だけでなく、テルアビブとその南のリション・エチオンも攻撃された。テルアビブには3発のロケット弾が着弾した（2発は海、1発は南部郊外）。ハマースあるいはイスラム聖戦が、テルアビブをロケット弾攻撃したのは初めてである。またテルアビブがロケット弾攻撃を受けたのは、1991年春にイラクのスカッド・ミサイルの攻撃以来になる。

イスラエル軍は、空爆を主体に海軍艦艇も動員して、ガザのハマース関連施設など100カ所以上やエジプトとの境界にあるトンネルを攻撃している。イスラエル軍は、生活物資を搬入するトンネルも攻撃していると報道されている。15日、バラク国防相は、予備役兵士3万人を招集した。イスラエル軍は16日から地上戦を開始する準備をしているとの報道もある。

米国は、ハマースに影響力のあるエジプト、トルコなどにロケット弾発射停止を働きかけるよう要請している。エジプトのカンディール首相が、16日にガザに入る予定である。イスラエルは、同首相がガザを訪問している間（3時間）は攻撃を中断する用意があることを表明したと報道されている。

評価

ガザからのロケット弾攻撃は、イスラエルの軍事的脅威になった。テルアビブへの攻撃では被害はなかった。しかし、ハマース、イスラム聖戦は、テルアビブを攻撃する能力があることを証明した。イスラエル軍は、その能力をつぶすか、発射できなくする政治的状況を作る必要がある。

ガザの武装勢力によるイスラエル南部へのロケット弾攻撃は、当初、性能の劣る手製のロケット弾による攻撃だった。粗末なミサイルの射程距離は短く、イスラエル側の被害は軽微だった。しかし、ガザから発射されるミサイルは、次第に本格的なミサイルになった。今回、ロケット弾は、ついにテルアビブに着弾した。

イスラエルは、ただちに予備役3万人を招集した。この早さは、準戦時体制並である。政府報道官は、ハマースが停戦を請うまで攻撃すると述べた。レバノンのヒズブリーダーですら

やっていないテルアビブ攻撃を実行した以上、ガザのハマースやイスラム聖戦は、イスラエル軍の相当な報復を覚悟する必要がある。イスラエルは、場合によっては、政治部門のハマース幹部殺害を実行するかもしれない。

イスラエルは、エジプトの要請を受けて、カンディール首相のガザ訪問中は、攻撃を中断するようだ。イスラエル側の、比較的冷静な対応の裏には、休戦を視野に入れているのかもしれない。

(中島主席研究員)